

**5** Rd.

**SEP 2015**

平成27年9月1日発行  
第6巻106号

# RACING PRESS

*apan*

**SUPER GT ROUND 5  
SUZUKA**



Super GT  
Series 2015

GT

Round 5  
SUZUKA

8/29-30

SUNOCO  
QUALITY MOTOR OIL



Ozawa

Text

島村元子

Editor

吉川絹恵

Photo

鉄谷康博

中村佳史

小澤克仁

吉川絹恵

Cover Photo

小澤克仁

BRIDGESTONE

第44回インターナショナル鈴鹿1000kmレースはSUPER GTの折り返し点にあたり、SUPER GT第5戦として開催された。マシンとドライバーの耐久を極限まで試され、最も過酷で最も長い一日のサバイバル戦の幕があがった。

# 第44回、真夏の祭典・鈴鹿1000kmが開催!

EBBRO  
MINIATURE MODEL by MMP



GRAN TURISMO  
THE REAL DRIVING SIMULATION

EBBRO  
MINIATURE MODEL



SUPER GT第5戦の舞台は三重・鈴鹿サーキット。真夏の一大戦と呼ばれたタフな戦いになるこの大会は、同時に鈴鹿における伝統の1000kmレースとしても知られる。また、チャンピオンシップの上でも勝利すれば大量のポイントを獲得できるため、是が非でも好成績を残したいという思いをもって各チームが激戦に挑むこととなった。そんな中、予選9位と出遅れたNo.36 PETRONAS TOM'S RC F (伊藤大輔/ジェームス・スロシター組) が決勝ではライバルを圧倒する速さ、隙のないピットワーク、そして2度にわたるSCランの混乱を味方につけて今季初勝利となる逆転優勝を果たし、チームとしては鈴鹿連覇を達成した。

SMILE  
COMPANY

# PETRONAS TOM'S RC F、不確定要素を味方に大逆転!



Kochira Racing

レースウィーク中、鈴鹿の天候は薄曇りから雨という不安定な天気が続いた。気温も30度を超えることはなく、季節外れの週末となる。逆にその涼しさが優位に働き、予選ではこれまでのコースレコードを更新する車両が続出。その中からNo. 1 MOTUL AUTECH GT-Rのロニー・クインタレッリがハンデウェイト68kgを跳ね除けてトップタイムをマーク。第2戦に続く今季2度目のポールを手にした。

決勝を迎えた鈴鹿は灰色に広がる空から時折が降り、先の読めないコンディションになった。レースは選択したレインタイヤがコースコンディションにマッチしたクルマが続々とポジションアップする一方、2回目

のピットワークが始まる頃にはスリックタイヤでの走行が可能となり、再び勢力図に変化が訪れる。だが、中盤突入前にトップの座を手にした36号車は盤石の走りをキープ。一時はNo.100 RAYBRIG NSX CONCEPT-GT (山本尚貴/伊沢拓也組)の猛追に遭ったが、周回を重ねるごとに差を広げ、終盤は後続車に1分以上の大差をつける独走のチェッカー。また、2位No.38 ZENT CERUMO RC F (立川祐路/石浦宏明組) や3位のNo.12 カルソニックIMPUL GT-R (安田裕信/ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ組)らも終盤の追い上げによって好成績を残すこととなった。



GT500



2nd

tetsu



Ozawa



Ozawa



### GT500決勝結果

1位	No.36	PETRONAS TOM'S RC F	伊藤大輔/ジェームス・ロシター	163周
2位	No.38	ZENT CERUMO RC F	立川祐路/石浦宏明	163周
3位	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	安田裕信/J.P.デ・オリベイラ	163周
4位	No.19	WedsSport ADVAN RC F	脇阪寿一/関口雄飛	163周
5位	No.100	RAYBRIG NSX CONCEPT-GT	山本尚貴/伊沢拓也	162周
6位	No.46	S Road MOLA GT-R	本山 哲/柳田真孝	162周
7位	No.1	MOTUL AUTECH GT-R	松田次生/ロニー・クインタレリ	162周
8位	No.37	KeePer TOM'S RC F	A.カルダレリ/平川 亮	161周
9位	No.64	Epson NSX CONCEPT-GT	中嶋大祐/ベルトラン・バゲット	160周
10位	No.8	ARTA NSX CONCEPT-GT	松浦孝亮/野尻智紀	158周
11位	No.39	DENSO KOBELCO SARD RC F	平手晃平/ハイキ・コバライネン	154周
12位	No.15	ドラゴ モデューロ NSX CONCEPT-GT	小暮卓史/O-ターベイ	149周
13位	No.24	D'station ADVAN GT-R	佐々木大樹/ミハエル・クルム	147周
14位	No.6	ENEOS SUSTINA RC F	大嶋和也/国本雄資	51周
	No.17	KEIHIN NSX CONCEPT-GT	塚越広大/武藤英紀	36周



3rd

tetsu

# GAINER TANAX GT-Rが Studie BMW Z4の猛攻を 逃げ切る!



## GT300

GT300は、予選でNo. 2 シンティアム・アップル・ロータス(高橋一穂/加藤寛規/濱口弘組)が今季初ポールポジションを獲得。決勝中も上位グループでの走行を続けたが、次第にシーズンを通しランキング上位で活躍するチームが台頭。その中からNo.10 GAINER TANAX GT-R(アンドレ・クート/千代勝正/富田竜一郎組)が88kgのハンディウェイトを背負いながらも劇的な速さを披露。終盤には、今季初優勝を狙うNo. 7 Studie BMW Z4(ヨルグ・ミュラー/荒聖治組)の猛攻に苦しんだが、巧みなコントロールを見せて優勝。驚愕の強さを見せてつけている。



### GT300決勝結果

1位	No.10	GAINER TANAX GT-R	アンドレ・クート/千代勝正/富田竜一郎	151周
2位	No.7	Studie BMW Z4	ヨルグ・ミュラー/荒 聖治	151周
3位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	井口卓人/山内英輝	151周
4位	No.88	マネバラランボルギーニGT3	織戸 学 平峰 一貴/佐藤公哉	150周
5位	No.21	Audi R8 LMS Ultra	リチャード・ライアン/藤井誠輔	150周
6位	No.65	LEON SLS	黒澤治樹/蒲生尚弥	150周
7位	No.2	シンティアム・アップル・ロータス	高橋一穂/加藤寛規/濱口 弘	150周
8位	No.0	グッドスマイル初音ミクSLS	谷口信輝/片岡龍也	150周
9位	No.77	ケースフロンティア Direction 458	横溝直輝/峰尾恭輔/飯田太陽	150周
10位	No.31	TOYOTA PRIUS apr GT	嵯峨宏紀/中山 雄一/佐々木孝太	150周
11位	No.11	GAINER TANAX SLS	平中克幸/ビヨン・ビルドハイム	150周
12位	No.55	ARTA CR-Z GT	高木真一/小林崇志/福住仁嶺	149周
13位	No.30	NetMove GT-R	小泉洋史/岩崎祐貴	149周
14位	No.3	B-MAX NDDP GT-R	星野一樹/高星明誠/ヴォルフガング・ライブ	148周
15位	No.48	DIJON Racing GT-R	高森博士/田中勝輝/柴田優作	148周
16位	No.22	グリーンテック SLS AMG GT3	和田 久/城内政樹	148周
17位	No.86	Racing Tech Audi R8	クリスチャン・マメロウ/細川慎弥/加藤正将	148周
18位	No.33	Excellence Porsche	坂本祐也/山下健太	148周
19位	No.60	SYNTIUM LMcorsa RC F GT3	飯田 章/吉本大樹/D.ファーンバッハー	147周
20位	No.111	Rn-SPORTS GAINER SLS	植田正幸/鶴田和弥/池上 真	146周
21位	No.18	UPGARAGE BANDO H 86	中山友貴/マルコ・アスマー/ニック・キャシディ	125周
22位	No.9	PACIFIC マクラレン with μ's	白坂卓也/阪口良平/山脇大輔	123周
23位	No.25	VivaC 86 MC	土屋武士/ 松井孝允/谷川達也	123周
24位	No.87	クリスタルクロ ランボルギーニ GT3	青木孝行/山西康司/黒田吉隆	105周
	No.51	JMS LMcorsa Z4	新田 守男/脇阪 薫一	68周
	No.50	SKT EXE SLS	加納 政樹/N.インドラ・バユーング/安岡 秀徒	53周
	No.5	マッハ車検 with いちこん 86c-west	玉中 哲二/密山 祥吾	37周
	No.360	RUNUP Group&DOES GT-R	吉田 広樹/田中 篤/成澤 正人	32周

# POLE POSITION

## No.1 MOTUL AUTECH GT-R

Text: Motoko Shimamura Photo: Yasuhiro Tetsutani



### ロニー・クインタレッリが驚愕のタイムをマーク。

季節外れの天候となった第5戦鈴鹿。秋を思わせるようなコンディションが味方したのか、次々とコースレコードを更新する車両が続出する。Q1では、レコード更新車両ですらQ2進出を阻まれるという激戦。そしてQ2のトップタイム争いを制したのがイタリア人ドライバー、ロニー・クインタレッリだった。すでにハンディウェイト68kgを負う厳しい状況ながら驚愕のタイムをマーク。アタック後、達成感あふれるその姿には、気迫が溢れていた。